

木材の特徴



木はナチュラルで質感も良くやさしい暖かみを感じます。

日本では昔から親しみのある木材ですが、

今でも住まいの柱や床、壁、家具など広く使われています。

額縁のフレームもアルミ製や樹脂製などありますが現在でも多くは木材を使用しています。

今回は、そんな木の特徴を紹介します。

木は人間と同じ生き物です。木もたくさんの細胞からできています。

その細胞にはたくさんの水が含まれています。

伐採直後の含水率は約40～50%で、その後徐々に蒸発し10～15%程度になります。

木は水分が減ると縮み、収縮すると強度が増します。

しっかり乾燥していない木材は反ったり割れたりすることもあります。

また、一度乾燥させた木材も湿度の高いところでは再び水分を吸収して膨らみます。

その性質を活かした木造建築は乾燥した冬場は木材から水分を吐き出し加湿し、

湿度の高い夏場は木材が水分を吸収し湿気を室内に入り込まないようにするなどの

湿度調整機能として利用されています。

この木の性質は長所でもあり短所でもあります。

当社の額縁は枠組み前の棹の状態からしっかり乾燥をさせたものを使用しておりますが、

反りや曲がりには木材の性質上、どうしても生じる可能性がありますことをご理解願います。